



# 東京浅草中央ロータリークラブ 週報

〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階  
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL : http://www.asachu-rc.jp

## 2009 - 2010 年度テーマ

R.I. テーマ 「ロータリーの未来はあなたの手に」  
R.I. 会長 John Kenny

2580 地区テーマ 「ロータリーの未来はあなたの手に」  
地区ガバナー 多田 宏

クラブテーマ 「感謝の心で行動を」  
クラブ会長 小林 雅純

## 本日の卓話

「中学生の職場体験と高校生のインターシップ 地区青少年育成委員会報告」  
東京板橋セントラルロータリークラブ幹事 地区青少年育成委員会委員 茂木正光様 紹介者 藤掛靖元君

## 今後の卓話予定

4/21 「障害者雇用について」  
埼玉県障害者雇用サポートセンター 企業支援アドバイザー 篠原庸雄様  
紹介者 上原洋一君

4/28 「振り込め詐欺」騙すテクニック&騙される心理  
浅草警察署 防犯課 阿部様  
紹介者 岩戸正一君



2010年4月14日

第1171回例会

会長 小林 雅純  
幹事 古谷 輝彦



年間100%出席

加藤昭雄君 3回

小林 博君 14回

## 前回 (4/7 1170 回例会) の記録

### 来訪者紹介 (1170 回例会)

◆ゲスト 2名 青少年交換留学生 アントネラ 様  
青少年交換留学生 山本 絵理 様

◆ビジター 1名 東京浅草RC 湧井 壮吉 様

### 出席報告 (1170 回例会)

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
43名	0名	2名	34名	7名	82.93%	1168 回例会修正 欠席 8名・出席率 80.49%

## 会長報告 <小林会長>

・3月の連休に上海に行ってきました。洋山深水港のコンテナヤードを見学して来ました。上海港は黄浦江のデルタにあり、水深は10mありません。その結果、大型のコンテナ船が入港できず物流のネックになっておりましたが、将来に備え大水深の埠頭がどうしても必要となりました。そこで上海の沖合30kmにある洋山に深水港を造ることになったのです。洋山には大型クレーン

が60基あり、水深15m以上の岸壁を有する国際的ハブ港であります。その洋山と上海間は、東海大橋で結ばれており、中国本土にピストン輸送を可能にする港に、6車線の高速度道路をわずか4年で造り上げました。その結果、上海はシンガポール、香港を近いうちに抜き去り、コンテナ取扱量が世界一となるのは間違いのないようです。中国では、新幹線・高速道路・飛行場・港湾など将来に備えて次々と大型工事を進めております。

## 幹事報告 <古谷幹事>

・4月13日(火) 13時30分より椿山荘において地区協議会が開催されます。出席登録者の出席をお願いします。

・北分区次年度ガバナー補佐中川宏三郎様より4月21日例会に訪問したいとの連絡がありました。

・青少年交換派遣学生の募集要項が来ております。興味のある方は事務所にて確認して下さい。

・東京板橋セントラルRCより例会変更の案内が来ております。事務所にて確認して下さい。

・本日例会終了後クラブ事務所において理事・役員会を開催します。

## 交換留学生山本千絵さん・・・・・・・・

ジャパンツアーの報告が有り、会員に京都銘菓八ッ橋がお土産として配られました。



## ・・・・・・・・交換留学生アントのスピーチ

こんにちは！  
私は先月に 来て話します。  
9日に私は 着物 を着ました。着物は 本当に大好きです とても 綺麗 でした。  
14日に私は ホステル を変えました、今勝どき に 住んでいます。ここにもんじゅの店が  
いっぱいあります。私は 大好きです。  
17日は コンサート でした。面白くて 楽しかったです。日本語とフランス語と英語とイタリア語の歌を  
歌いました。その日にコンサートの前は エミと私と 昼ごはんを食べて 買い物して コンサートに行きました。  
19日の夜は 小豆のおかしを 作りました。20日に 私の 誕生日 を作った おかしを クラス  
メイトに プレゼント しました。クラスメイトは 私に お花を くれました。そのあと クルサーと エミと  
私は 池袋 で 食べに行きましたと プリクラも しました。その日の夜に 古谷さんのお母さんと  
小林のお母さんと 長島さんのホステルは 夕食 を 食べました。本当に うれしかったですから  
いつも 私の 友達 と 一緒に パーティーを します。それは とても 楽しい！！  
24日に 私とお母さんは 映画を見に行きました。ハット ロックを見ました。とても 面白かったです。  
27日から 4月4日は ジャパンツアー でした。すごく 面白くて 綺麗 でした。大阪と 本島  
と 長崎 と 山口 と 福岡 と 奈良 と 京都 と 福岡 と 名古屋へ  
行きました。京都のお土産は いろいろありますが せんべい 見えなかったから 時間 なかった。  
京都と 奈良と 本島と 長崎も 大好きです。綺麗 でした。でも 京都は 一番好き！  
30日に私は ちゃんと 悲しかった ですから 私の お母さんの 誕生日 でした。でも その日 私は  
電話を しました。私のお母さんは 本当に うれしかったです。  
これで スピーチ を 終ります。  
ありがとうございました！

### ニコニコボックス

#### <小林会長、古谷幹事>

・長島さん卓話よろしくお願ひします。

#### <藤野、永井>

・長島さん、カンボジア日本語学校視察報告、楽しみにしています。

#### <長島>

・本日カンボジア報告をさせていただきます。

#### <関原>

・結婚記念の花束ありがとうございます。

たしか39回目だと思います。

#### <松本>

・結婚記念の花束をいただきありがとうございます。

#### <永井>

・結婚記念日に花束、ありがとうございます。

#### <岩戸>

・結婚記念日のお花をありがとうございます。40回目です。



## 「カンボジア日本語学校視察報告」

— 鬼一二三日本語学校・・・ホーチミン —

長 島 資 生 君

2010年3月4日～8日

## 参加者

中村義英、天笠悦像、岩戸正一、藤野勝彦、美智子、斉藤桂子、長島資生、弘子 計8名

3月4日、成田10時半 VN951 便にてホーチミンへ

14時55分 ホーチミン着 トランジット

19時35分 ホーチミン発 20時35分 シェムリアップ着

## 3月5日

学校へ行く組と。アンコールワット・トムへ見学に行く組と別れた。

今回訪問した小学校はワットポパンティアジェイといい、ホテルから30分のところであり、先生は校長以下37名、生徒数は1043名である。そこで1043名分のサンダル、他ノート、地球儀、三角定規、計算機等を贈呈した。学校の設備もある程度整っており、生徒もしっかりしていて、返事も挨拶も英語で返ってきたのには驚かされた。

11時に合流昼食後、12時、鬼一二三学校訪問。20人ほどの生徒が暑い最中、鬼先生は留守であったが、代理の先生の下で日本語を勉強していた。

13時 クメール伝統織物研究所のシルク村・森本氏を訪れるために出発。でこぼこ道を1時間走破しシルク村に到着。森本氏は京都の手書き友禅の職人であったが、タイ・カンボジアの布の光沢に魅せられて移住したとの事。都心から離れたこの地の森に8年掛けて道を開き、井戸を掘り、電気は自家発電に頼り開発されたとの事。藍染に必要な温度は32度、ここカンボジアは常温として30度C前後あるために最適な条件が備わっているとの事であった。

18:30から日本料理米咲にて楽しみにしていた生徒達との懇親パーティー。もう足掛け5年4回も行っているの顔なじみの生徒がいて会うなり握手、抱擁の大歓迎を受けた。

3月6日10:30 VN9881にてシェムリアップを経ちベトナムホーチミンに向う。空から見るホーチミンは住宅が多くなったように見受けられた。

ホーチミン人口、800万～1000万人、車 33万台 バイク 350万台  
不動産に関しては、北部は国が所有するが、南部は個人所有が許されている。

日本人 約3300人の年金生活者がいる。

メコン川の中州(12km<sup>2</sup>)には6300人が住んでいる。

その後戦争博物館へ行く。

まざまざ戦争の恐ろしさ、残虐さを知る。



— カンボジア、ヴェトナムを訪ねてみて… —

岩 戸 正 一 君

何せ暑く湿度も高い!! 温度差30℃の体調管理では往きは真夜中着で意外とすんなり、帰りは朝07:30成田での気温差30℃の調整には2~3日は必要でした。

シュムリアップのホテル; メリディアンは快適そのもの、外の暑さなど関係なしの別世界、広々としたロビー、ゆったり流れる時間そしてホテル関係者を元とするみんなの「微笑み」本当に心が癒される (昔??の日本にもあった筈)、その上に朝食が種類・味共に最高。

鬼先生の日本語学校は幅広い年齢層が学習をしている。学ぼうとする姿勢と眼の光に少々うたれる。

舗装してない悪路を走る事・・・結構周りを見ていると楽しい・・・1時間

此処に何故こんなものがあるのといった感じの、屋根だけの建物が眼に入ってくる。

此処が森本さんの拠点?? テレビの取材来ている (後で判明した事・・・TBS系列「世界を変える100人の日本人」の取材)、しかしそんな事には触れもしない人物、人柄。

森本さんの話と現実にノックダウン・・・「聞く」は易し・「行う」は難し、厭々不可・・・京都・西陣で染色をしていた際に抱いた疑問・時が立つと色が褪せる。昔のものとは違う。本物を作りたいとタイへ赴き、更にカンボジアでクメールの伝統的な織物に出合うが継承者がいなくて風前の灯火。本当にいい物を作ろう、長く使えば使うほど味が出てくるものを・・・繭から手で紡ぎ、木の皮や虫の巣など、自然の色で染め、一つ一つ手織りしてゆく。自然から生まれた色は生きている。仕舞い込んで置く為のものは作っていない、是非使って欲しい、直に身体に馴染んでくる、色に深みが増してきて、布が喜ぶ筈ですとの言葉・・・勧められての衝動買い・・・

本当に買って良かった・・・使うにつれて馴染んできて、最近は何時でもこれをしているみたいです。

何回もとはいませんが、皆さん一度は訪れることをお勧めします。